

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本文学	平成27年度	川合 洋子	3	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

国語ⅠA・ⅠB・Ⅱの学習を受けて、3年生では、さらに日本語で書かれたさまざまな文章（小説・随想・評論・詩歌等）の読解を通して、社会人として必要な日本語の理解力、および日本語による表現力を身につけさせたい。

[授業の内容]

すべての内容は JABEE 基準 1 (1) の(a)および(f), 学習・教育目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する。

前期

- 第1週 本授業の概容および学習内容の説明  
 評 論 「身銭」を切るコミュニケーション (内田樹) ①
- 第2週 評 論 「身銭」を切るコミュニケーション (内田樹) ②
- 第3週 評 論 「身銭」を切るコミュニケーション (内田樹) ③
- 第4週 小 説 山月記 (中島敦) ①
- 第5週 小 説 山月記 (中島敦) ②
- 第6週 小 説 山月記 (中島敦) ③
- 第7週 小 説 山月記 (中島敦) ④
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 前期中間試験の反省  
 評 論 相手依存の自己規定 (鈴木孝夫) ①
- 第10週 評 論 相手依存の自己規定 (鈴木孝夫) ②
- 第11週 評 論 相手依存の自己規定 (鈴木孝夫) ③
- 第12週 評 論 相手依存の自己規定 (鈴木孝夫) ④
- 第13週 詩 永訣の朝 (宮沢賢治) ①
- 第14週 詩 永訣の朝 (宮沢賢治) ②
- 第15週 詩 永訣の朝 (宮沢賢治) ③

後期

- 第1週 前期末試験の反省  
 評 論 サッカーにおける「資本主義の精神」  
 (大澤真幸) ①
- 第2週 評 論 サッカーにおける「資本主義の精神」  
 (大澤真幸) ②
- 第3週 評 論 サッカーにおける「資本主義の精神」  
 (大澤真幸) ③
- 第4週 評 論 サッカーにおける「資本主義の精神」  
 (大澤真幸) ④
- 第5週 随 想 猫のしあわせ (多和田葉子) ①
- 第6週 随 想 猫のしあわせ (多和田葉子) ②
- 第7週 随 想 猫のしあわせ (多和田葉子) ③
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 後期中間試験の反省  
 小 説 こころ (夏目漱石) ①
- 第10週 小 説 こころ (夏目漱石) ②
- 第11週 小 説 こころ (夏目漱石) ③
- 第12週 小 説 こころ (夏目漱石) ④
- 第13週 小 説 こころ (夏目漱石) ⑤
- 第14週 小 説 こころ (夏目漱石) ⑥
- 第15週 小 説 こころ (夏目漱石) ⑦  
 パネル・ディスカッションを行う  
 年間授業の反省

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本文学（つづき）	平成27年度	川合 洋子	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(小説・詩歌)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小説・詩歌作品の文学的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。</li> <li>2. 小説のあらすじを把握し、登場人物の心情・行動を理解することができる。</li> <li>3. 詩歌について、作者の意図を理解し、表現技巧を把握することができる。</li> <li>4. 小説・詩歌について、鑑賞能力を養い、自分の感想を文章にまとめることができる。</li> <li>5. 小説・詩歌について、文学史的知識を身につけ、作品が書かれた時代背景を理解することができる。</li> <li>6. 教材をヒントにして、自分の心情を詩歌作品として表現することができる。</li> </ol>	<p>(随想・評論)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 随想・評論作品の今日的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。</li> <li>8. 随想の持つ表現上の特色を理解することができる。</li> <li>9. 随想・評論について、作者の意図を理解し、論理の展開を把握することができる。</li> <li>10. 評論について、各段落、および全体の要旨についてまとめることができる。</li> </ol> <p>(表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 学習したことを踏まえ、相手に説得力をもって自分の言いたいことを伝える感想文・小論文等を書くことができる。</li> <li>12. 学習したことを踏まえ、パネル・ディスカッションを行うことを通して、「公」の言葉で自らの意思を相手に伝えることができる。</li> </ol> <p>(漢字・語彙)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 「常用漢字アルファ」に基づき、漢字小テストを年間10回程度実施し、社会人として必要な漢字・語彙力を習得している。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>社会人としての日本語の理解力・表現力を備え、近現代の日本文化全般に親しむことができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～13を網羅した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。出された課題は期限を守り、必ず提出すること。</p> <p>なお、第2学年に引き続き、文部科学省認定の「漢字能力検定試験」への積極的な取り組みを奨励する。なお、本教科は後に学習する「文学概論Ⅰ・Ⅱ」「言語表現学Ⅰ・Ⅱ」等の基礎となる科目である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 本教科は、「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」の学習が基礎となる教科である。</p>	
<p>[レポート等] 理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。また夏期休業中の宿題として、課題図書による読書体験記を執筆させ、提出させる。</p>	
<p>教科書：「精選現代文B」（東京書籍）</p> <p>参考書：「精選現代文B準拠 学習課題ノート」（東京書籍）、「五訂版漢字とことば 常用漢字アルファ」（桐原書店）、「学校指定の「電子辞書」」、「国語表現活動マニュアル」（明治書院）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%、小テストの結果を20%、提出課題・漢字検定の取り組み・口頭発表等の結果を20%として評価する。ただし、前期中間・前期末・後期中間・学年末試験ともに再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件] 与えられた課題レポート等をすべて提出し、前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験、課題、小テストにより、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
線形代数Ⅱ	平成27年度	伊藤(裕)	3	前期	履修単位1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>工学および自然科学の現象は行列により簡潔に記述できることがある。ここでは、行列式、掃き出し法、行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化について学習する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての授業の内容は、学習・教育目標(B)〈基礎〉およびJABEE基準1(1)(c)に対応する</p> <p>第1週 行列式の定義</p> <p>第2週 行列式の性質</p> <p>第3週 余因子と行列式の展開</p> <p>第4週 行列式の積</p> <p>第5週 行列式の性質を用いた式変形の演習</p> <p>第6週 逆行列と余因子を利用した求め方</p> <p>第7週 連立一次方程式とクラメルの公式</p>	<p>第8週 前期中間試験</p> <p>第9週 掃き出し法(連立方程式の解法)</p> <p>第10週 掃き出し法(逆行列の求め方)</p> <p>第11週 連立同次一次方程式、階数、一次独立と一次従属</p> <p>第12週 行列の固有値</p> <p>第13週 行列の固有ベクトル</p> <p>第14週 行列の対角化</p> <p>第15週 対角化に関する様々な演習</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 行列の定義や性質が理解できる。</p> <p>2. 行列式の値を求めることができる。</p> <p>3. 行列式の性質を利用して計算することができる。</p> <p>4. 余因子の定義を理解し、利用できる。</p> <p>5. 行列の正則条件を理解し、逆行列を求めることができる。</p> <p>6. クラメルの公式を理解し、連立一次方程式を解ける。</p>	<p>7. 掃き出し法を使って逆行列や連立一次方程式の計算ができる。</p> <p>8. 階数の計算ができる。</p> <p>9. 行列の固有値・固有ベクトルの定義を理解し計算できる。</p> <p>10. 行列を対角化することができる。</p> <p>11. 一次独立と一次従属について理解している。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>行列・行列式に関する基本事項を理解し、行列の変形で連立方程式を解くことや逆行列を求めることができ、固有値や固有ベクトルを理解して行列の対角化ができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～11の習得の度合いを中間試験・前期末試験及び小テスト、課題により評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。評価結果において平均60点以上の成績を取得したとき目標を達成したと確認できるような試験や課題を課す。</p>
<p>[注意事項] 疑問点は授業中・放課後に質問するなどして、十分に理解してから次の授業に臨むこと。授業中の演習時間だけでは十分な時間が確保できないので、授業時間以外の時間において教科書・問題集などの多くの問題を解くように努力すること。本教科は後に学習する数学特講Ⅰ、Ⅱや応用数学Ⅱの基礎となる教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 2年次の線形代数の基礎知識。本教科は微分積分Ⅰ、線形代数Ⅰの学習が基礎となる教科である。</p>	
<p>[レポート等] 長期休業中の宿題のほか、授業中にも適宜小テスト・課題を課す。</p>	
<p>教科書：高専の数学2(森北出版)</p> <p>問題集：新編高専の数学2問題集(森北出版)、ドリルと演習シリーズ 線形代数(TAMSプロジェクト4編集)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間試験、前期期末試験の2回の試験の平均点を最終評価とする。ただし、それぞれの試験の得点が60点に満たない者に対しては、課題の出来などに応じて10点を上限として試験の得点に加える。また、課題考慮済みの前期中間試験の得点が60点に満たない場合は再試験を課し、再試験の成績が前期中間試験の成績を上回った場合には、60点を上限として前期中間試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分Ⅱ	平成27年度	豊田 哲	3	通年	履修単位4	必

[授業のねらい]

2年生に引き続いて、微分積分学の学習を行う。微分積分学は自然科学や工学の学習の基礎となる学問である。1変数の2回微分・高階微分を利用した様々な応用について学ぶ。さらに積分についても2年生に続いて発展的な内容を扱う。また、多変数の微分積分について偏微分、全微分、重積分などの応用について学習する。

[授業の内容]

すべての授業の内容は、学習・教育目標(B)〈基礎〉およびJABEE基準1(1)(c)に対応する。

前期

- 第1週 2年生で学んだ微分の復習、極値の判定条件
- 第2週 第2次導関数と曲線の凹凸、増減表への応用
- 第3週 逆関数とその導関数、逆三角関数とその導関数
- 第4週 曲線の媒介変数表示とその導関数
- 第5週 極座標表示と曲線
- 第6週 ロルの定理と平均値の定理
- 第7週 ロピタルの定理、不定形の極限值
- 第8週 中間試験
- 第9週 ベキ級数と収束半径、高次導関数
- 第10週 テイラーの定理と近似式
- 第11週 マクローリン展開
- 第12週 有限マクローリン展開による近似値の評価
- 第13週 2年生で学んだ積分の復習、無理関数の積分
- 第14週 分数関数の積分
- 第15週 三角関数の積分

後期

- 第1週 定積分の定義と性質、区分求積法
- 第2週 図形の面積
- 第3週 回転体の体積と曲線の長さ
- 第4週 広義積分
- 第5週 2変数関数のグラフと極限
- 第6週 偏導関数、高次偏導関数
- 第7週 2変数関数の平均値の定理と全微分
- 第8週 中間試験
- 第9週 2変数関数の極値、ヘッシアン
- 第10週 陰関数定理、ラグランジュの乗数法
- 第11週 重積分の定義
- 第12週 重積分と累次積分
- 第13週 積分の順序変更と体積計算
- 第14週 変数変換とヤコービアン
- 第15週 極座標による重積分

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分Ⅱ（つづき）	平成27年度	豊田 哲	3	通年	履修単位4	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1変数関数の微分や積分の基本計算ができる。</li> <li>第2次導関数を求めることができる。</li> <li>関数の増減や凹凸、極値を調べ、グラフがかけられる。</li> <li>逆関数の方程式や導関数を求めることができる。</li> <li>逆三角関数の値やその導関数を求めることができる。</li> <li>曲線の媒介変数方程式、媒介変数を消した方程式を求めることができる。</li> <li>接ベクトルや接線の方程式を求めることができる。</li> <li>速度ベクトル、加速度ベクトルを求めることができる。</li> <li>直交座標と極座標の変換ができる。</li> <li>極方程式を求めることができる。</li> <li>いろいろな1変数関数の応用問題を解くことができる。</li> <li>平均値の定理を理解し利用できる。</li> <li>ロピタルの定理を使って、関数の極限が求められる。</li> <li>べき級数の収束半径を求めることができる。</li> <li>高次導関数を求めることができる。</li> <li>近似式を使って、近似値を求めることができる。</li> <li>関数のテイラー展開、マクローリン展開を求めることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>18. 定積分の定義を理解できる。</li> <li>19. 分数関数、無理関数、三角関数の積分ができる。</li> <li>20. 曲線で囲まれる図形の面積、曲線の長さ、回転体の体積を積分を用いて計算をすることができる。</li> <li>21. 広義積分を求めることができる。</li> <li>22. 2変数関数の定義域、極限値、極値が求められる。</li> <li>23. 偏導関数や全微分の求め方、使い方が理解できる。</li> <li>24. 陰関数定理を使って、導関数を求めることができる。</li> <li>25. 陰関数表示の曲線の接線の方程式を求めることができる。</li> <li>26. ヘッシアンを利用して極値を求めることができる。</li> <li>27. ラグランジュの乗数法を使って、関数の極値を求められる。</li> <li>28. 偏導関数を利用して応用問題を解くことができる。</li> <li>29. 重積分の定義を理解できる。</li> <li>30. 重積分を累次積分に直したり、積分順序を変更したりして計算することができる。</li> <li>31. 重積分を用いて立体の体積を計算できる。</li> <li>32. 極座標に変換して重積分を求めることができる。</li> <li>33. 重積分を広義積分に応用し、その値を求めることができる。</li> <li>34. 重積分を用いた応用問題を解くことができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>微分積分に関する基本的事項や、偏微分や重積分の概念を理解し、いろいろな関数に対して、定理や計算方法を応用することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～34を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] この科目は応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱに強く関連する科目である。定期試験直前の学習のみでなく、平常時の予習・復習に十分な時間をかけること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 本教科の学習には微分積分Ⅰの知識を修得していることが必要である。</p>	
<p>[レポート等] 長期休業中の課題のほか、授業中にも適宜小テストや課題を課す。</p>	
<p>教科書：「新編高専の数学3」 田代嘉宏他（森北出版）  問題集：「新編高専の数学3問題集」 田代嘉宏他（森北出版）、  「ドリルと演習シリーズ 微分積分」 日数教高専・大学部会教材研究グループTAMS編（電気書院）  参考書：「大学・高専生のための 解法演習 微分積分Ⅰ、Ⅱ」 糸岐宣昭他（森北出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験の平均点を80%、課題や小テストの成績を20%として評価する。ただし、前期中間・前期末・後期中間の各試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が試験の成績を上回った場合には、60点を上限として再試験の成績に置き換える。学年末試験については再試験は実施しない。</p> <p>[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
数学講究	平成27年度	島田 佑一	3	後期	履修単位1	必

[授業のねらい]

線形代数の復習・演習と偏微分の演習を行う。4年時からのベクトル解析学習のための準備を行うとともにベクトル解析の初歩を学習する。

[授業の内容]

すべての授業の内容は、学習・教育目標 (B) <基礎>及び Jabee 基準 1 の(1)(c)に対応する。

第1週 線形代数Ⅰの復習と演習 (ベクトル, 内積)

第2週 線形代数Ⅰの復習と演習 (直線, 平面, 外積)

第3週 線形代数Ⅱの復習と演習 (行列と行列式)

第4週 線形代数Ⅱの復習と演習 (行列の固有値と固有ベクトル)

第5週 偏微分の演習 (偏微分の意味と計算)

第6週 偏微分の演習 (合成関数の偏微分, 接平面)

第7週 予備

第8週 中間試験

第9週 ベクトル値関数

第10週 ベクトル場とスカラー場

第11週 勾配 (gradient)

第12週 発散 (divergence)

第13週 回転 (rotation)

第14週 線積分の意味とその計算

第15週 予備

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. ベクトル, 内積, 外積に関する概念を理解し計算をすることができる。
2. 座標空間のいろいろな図形の方程式を理解している。
3. 行列, 行列式の諸性質を理解し計算をすることができる。
4. 偏微分の意味を理解し基本的な関数に対してその導関数を計算することができる。
5. 2変数関数のグラフの接平面を求めることができる。
6. ベクトル値関数の微分, 積分を求めることができる。

7. 曲線を表すベクトル値関数を理解しその基本量 (長さなど) をもとめることができる。
8. ベクトル場とスカラー場の概念を理解している。
9. 勾配 (gradient), 発散 (divergence), 回転 (rotation) の概念を理解し, 計算することができる。
10. 線積分の概念を理解し計算できる。

[この授業の達成目標]

線形代数の復習・演習を通じて活用能力を高める。偏微分の基本を復讐する。ベクトル解析の初歩を学習する。4年時からの本格的なベクトル解析学習のための準備を行う。

[達成目標の評価方法と基準]

上記の「知識・能力」1～10を網羅した問題からなる中間試験, 定期試験で, 目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とするが評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。

[注意事項] 専門分野を理解してゆくための欠くことのできない予備知識であり, 授業時間以外でも積極的な学習が必要である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 1, 2学年までに学んだ基本的な事柄。

[レポート等] 適宜, レポートや課題を与える。

教科書: 水本久夫「ベクトル解析の基礎」(培風館),

参考書: 「新編高専の数学1-3」(森北出版), 基礎数学問題集 (鈴鹿高専数学教室編), 「新編高専の数学2-3 問題集」(森北出版)。

[学業成績の評価方法および評価基準] 到達度試験の成績を評価の10パーセントとする。70パーセントを後期中間と学年末試験の平均点とし, 20パーセントをレポート課題または小テストの評価とする。ただし後期中間試験の成績不振者には再試験を実施し, 再試験の評価が該当する試験の成績を上回った場合には, 満点の6割を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。

[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語Ⅲ	平成 27 年度	出口 芳孝	3	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]  
英語 I, II で得た英語の知識技能を活用して, 様々な分野の英文を読み進めながら, 総合的な英語運用力を伸長することを目指す。また, 広い視野と、的確に情報を受信・発信する基礎力を養うことをねらいとする

[授業の内容]	
<p>すべての内容は, 学習・教育目標(A) &lt;視野&gt; &lt;意欲&gt; 及び (C) &lt;英語&gt;, および JABEE 基準 1(1) (a), (f) の項目に相当する。</p> <p>前期</p> <p>第1週 ガイダンス: 授業概要および成績評価について</p> <p>第2週 TV over the Internet Pushes Broadband Growth (1) 支配と修飾、品詞と要素</p> <p>第3週 TV over the Internet Pushes Broadband Growth (2) 動詞文型</p> <p>第4週 Autism Test Could Use Images of Brain (1) 述語動詞—基本時制</p> <p>第5週 Autism Test Could Use Images of Brain (2) 述語動詞—複合時制</p> <p>第6週 Help to Fight Drug-Resistant Bacteria (1) 述語動詞—態</p> <p>第7週 Help to Fight Drug-Resistant Bacteria (2) 述語動詞—助動詞</p> <p>第8週 Review</p> <p>第9週 中間試験</p> <p>第10週 ガイダンス: 試験の反省、今後の学習方法</p> <p>第11週 Mobile Phones for STIs and Blood Pressure (1) 準動詞—概説</p> <p>第12週 Mobile Phones for STIs and Blood Pressure (2) 準動詞—分詞</p> <p>第13週 Autism Test Could Use Images of Brain (1) 準動詞—不定詞</p> <p>第14週 Autism Test Could Use Images of Brain (2) 準動詞—動名詞</p> <p>第15週 Autism Test Could Use Images of Brain (3) 準動詞—Nexus の概念</p>	<p>後期</p> <p>第1週 Babies and Intelligence: The Latest Findings (1) 省略構文—with+名詞+分詞</p> <p>第2週 Babies and Intelligence: The Latest Findings (2) 省略構文—分詞構文</p> <p>第3週 Babies and Intelligence: The Latest Findings (3) 関係代名詞</p> <p>第4週 Toys for Christmas Gifts (1) 関係副詞</p> <p>第5週 Toys for Christmas Gifts (2) 話法</p> <p>第6週 The United States Turns Inward After World War One (1) 仮定法</p> <p>第7週 The United States Turns Inward After World War One (2) 名詞構文</p> <p>第8週 Review</p> <p>第9週 中間試験</p> <p>第10週 Using Lasers to Treat Kidney and Liver Tumors (1) 支配と修飾(2)</p> <p>第11週 Using Lasers to Treat Kidney and Liver Tumors (2) 目的語の拡張</p> <p>第12週 Using Lasers to Treat Kidney and Liver Tumors (3) 補語の拡張</p> <p>第13週 Are EVs, Plug-in Hybrids the Cars of the Future? (1) 修飾語の拡張</p> <p>第14週 Are EVs, Plug-in Hybrids the Cars of the Future? (2) 形容詞文型</p> <p>第15週 Review</p>

(次ページにつづく)



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語Ⅲ（つづき）	平成 27 年度	出口 芳孝	3	通年	履修単位 2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「授業内容」に示した教科書の英文の内容を理解できる.</li> <li>2. 教科書の英文に使用されている文法事項, 英単語・熟語の意味を理解し, 基本的なものの使用できる.</li> <li>3. 教科書の英文の内容に関して簡単な質疑応答が英語でできる.</li> <li>4. 教科書の英文の概要を聞き取り理解できる.</li> </ol>	
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>英文の内容を理解し, 使用されている語彙, 語法, 慣用表現, 文法事項を理解するとともに基本的なものを用いることができる.</p> <p>現代社会で関心を集めている話題について視野を広げ, 自ら理解を深めていくことができる.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～4を網羅した事項を定期試験及び小テスト・課題等で, 目標の達成度を確認する. 1～4の重みは概ね均等で, 4回の定期試験結果で7割, 平常の小テスト・課題で3割とした総合評価において6割以上を取得した場合を目標の達成とする.</p>
<p>[注意事項] 本教科は英語 IVA, B の基礎となる.</p> <p>毎回の授業分の予習をしたうえで, 積極的に授業に参加すること. 授業には必ず英和辞典 (電子辞書でも可) を用意すること.</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語ⅡA, B で学習した英単語, 熟語, 英文法の知識が予め要求される.</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す.</p>	
<p>教科書: 自作教材</p> <p>参考書: 『高校総合英語 Harvest』 (桐原書店), 英語総合問題演習 WIDE ANGLE Premium -BOOK 4- (美誠社), 『Science Daily』 (<a href="http://www.sciencedaily.com/">http://www.sciencedaily.com/</a>), 『Voice of America: Learning English』 <a href="http://learningenglish.voanews.com/">http://learningenglish.voanews.com/</a></p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を70%, 平常時の小テストや課題の評価の平均を30%として, それぞれの学期毎に評価し, これらの平均値を最終評価とする. 再試験については基本的に行わない. 実施する場合には, 再試験の結果を60点を上限としてそれぞれの試験の成績にそのまま置き換えるものとする.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること.</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講ⅠA	平成27年度	日下 隆司	3	前期	履修単位1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語を介した相互理解の向上のためには、表現内容の正しい理解が前提となる。英語Ⅰ、Ⅱで学習した事項をもとに、基本的な英語構文に関する理解を深め、標準的な英語運用能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>内容はいずれも、学習・教育目標(A)＜視野＞[JABEE基準1(1)(a)]および(C)＜英語＞[JABEE基準1(1)(f)]に対応する。</p> <p>第1週 序論(授業の進め方、勉強の仕方、評価方法) プラクティス・テスト</p> <p>第2週 Unit 1: Transportation and Information</p> <p>第3週 Unit 2: Instructions and Explanations</p> <p>第4週 Unit 3: Eating and Drinking</p> <p>第5週 Unit 4: Business Scene</p> <p>第6週 Unit 5: Communication</p> <p>第7週 Unit 6: Socializing</p>	<p>第8週 中間試験</p> <p>第9週 前期中間試験返却と解答解説・復習</p> <p>第10週 Unit 7: Invitation</p> <p>第11週 Unit 8: Medical Treatment and Insurance</p> <p>第12週 Unit 9: Culture and Entertainment</p> <p>第13週 Unit 10: Shopping</p> <p>第14週 Unit 11: Sports and Exercise</p> <p>第15週 Unit 12: Trouble and Claims</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 限られた時間内で、対象となる英文を読んで内容の要点を理解することができる。</p> <p>2. 英文の流れをつかみながら、その内容を正確にできるだけ速く理解することができる。</p> <p>3. 教科書本文に出てきた文法事項が理解できる。</p>	<p>4. 教科書本文に出てきた英単語、熟語、構文の意味の理解およびその英語を書くことができる。</p> <p>5. 読んだ内容に関する英文を聴いて、その英語の意味を理解し書き取ることができる。</p> <p>6. 聴いた内容を理解し、問いに答えることができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>既習の文法事項等を活用して、TOEICテスト形式に準じた設問に対応することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～6を網羅した事項を定期試験及び授業中に行われる小テスト等の結果、及びオンライン学習システムを利用した語彙テストや課題等で目標の達成度を評価する。1～6の重みは概ね均等である。前期中間、前期末の定期試験の結果を6割、授業中に行われる小テストの結果、及びオンライン学習システムを利用した語彙テストや課題等の評価を合わせたものを4割とした総合評価において6割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 本教科は将来、実際の英語資格試験に対応するための導入授業であり、次年度『英語ⅣA』の基礎となる。自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題等の提出、及び小テストを求めると、日常的に英語に触れる習慣を身につけ、英語学習に努めること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語Ⅰ・Ⅱで身につけた英語運用能力</p>	
<p>[レポート等] 授業に関連する小テストおよび課題を課す。</p>	
<p>教科書: <i>Start-up Course for the TOEIC® Test</i> (成美堂), 『五訂版コンパクト英語構文90』(数研出版), 『Cocet2600』(成美堂)その他適宜プリントを配布する。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>求められる課題の提出をしていなければならない。前期中間、期末の2回の試験の平均点を60%とし、小テスト、及びオンライン学習システムを利用した語彙テストとその他課題の評価を合わせたものを40%とし、その合計点で評価する。ただし、前期中間試験で60点に達していない者には再試験を課す場合がある。その場合には、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。前期末試験においては、再試験を行わない。</p>	
<p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講Ⅰ B	平成27年度	中井 洋生	3	前期	履修単位 1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語Ⅰ、Ⅱで学習した英語の基礎知識と技能をもとに、英語の基本構造に関する理解を徹底させ、簡単な英語を活用する能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべて内容は学習・教育目標(A)＜視野＞および(C)＜英語＞に対応する。</p> <p>前期</p> <p>第1週 授業概要、成績評価法の説明、it 中心の構文</p> <p>第2週 不定詞を含む構文</p> <p>第3週 分詞を含む構文</p> <p>第4週 動名詞を含む構文</p> <p>第5週 関係詞を含む構文</p> <p>第6週 否定構文</p> <p>第7週 助動詞を含む構文</p> <p>第8週 仮定法を用いた構文</p>	<p>第9週 中間試験</p> <p>第10週 接続詞を含む構文</p> <p>第11週 比較構文</p> <p>第12週 譲歩構文、無生物主語を含む構文</p> <p>第13週 間接疑問・同格・強調・倒置</p> <p>第14週 名詞構文・その他</p> <p>第15週 総復習</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 英語の文型を利用して簡単な英文を作ることができる。</p> <p>2. 英文の要素を理解し、文を完成させることができる。</p>	<p>3. 教科書にある構文を理解し、使用できる。</p> <p>4. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>基本的な英語構文を理解し、英語を「読む・書く」ことに活用することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>英語を「読む・書く」に関する「知識・能力」1～4の確認を小テストおよび中間試験、期末試験で行う。1～4に関する重みは同じである。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す</p>
<p>[注意事項]</p> <p>毎回の授業分の予習をした上で、積極的に授業に参加すること。学習した基本例文を暗唱できるようにしておくこと。</p> <p>本教科は英語ⅣA、英語ⅣBと強く関連する教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ、Ⅱで学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業に関連する小テスト、及び課題（英作、和訳等）を課す。</p> <p>教科書：「コンパクト英語構文90」（数研出版） 「理工系学生のための必修英単語2600」（成美堂）</p> <p>参考書：「総合英語フォレスト」（桐原書店）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・定期試験の結果を70%、小テストの成績を20%、課題を10%として100点法で評価する。ただし、前半の成績（中間試験・小テスト・授業時・課題）が60点を達成できない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価し前半の成績とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講Ⅰ（C）	平成27年度	林 浩士	3	前期	履修単位1	必

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで身につけた基礎学力をもとに、英語の基本構造に関する理解を深め、読解および英語表現に活用する能力を伸ばす。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)＜視野＞[JABEE 基準 1(1)(a)]および(C)＜英語＞[JABEE 基準 1(1)(f)]に対応する。</p> <p>第1週【構文】It 中心の構文  第2週【構文】不定詞を含む構文  第3週【構文】分詞を含む構文  第4週【構文】動名詞を含む構文  第5週【構文】関係詞を含む構文  第6週【構文】否定構文  第7週【構文】助動詞を含む構文  第8週【構文】仮定法を用いた構文</p>	<p>第9週 中間試験</p> <p>第10週【構文】接続詞を含む構文  第11週【構文】比較構文  第12週【構文】譲歩構文、無生物主語を含む構文  第13週【構文】間接疑問文、強調・倒置、  第14週【構文】名詞構文・その他  第15週【構文】まとめ</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 教科書にある構文や文法を理解し、使うことができる。  2. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p>	<p>3. 英語の文型を理解し、簡単な英文を作ることができる。  4. 150語～200語程度の英文を読み、内容を理解できる。  5. 目標達成のため自主的・継続的に学習できる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>基本的な英語構文を理解し、英語を「読む・書く」ことに活用することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～4の確認を小テストおよび中間試験、期末試験で行う。1～4に関する重みは同じである。合計点の60%の得点で目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。  「知識・能力」5については、課題・小テストにより評価する。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>授業の予習をした上で積極的に授業に参加すること。学習した基本例文は暗唱できるようにしておくこと。また課題については、計画的に取り組み、提出期限を守ること。本科目は英語ⅣAおよび英語ⅣBの基礎となるものである。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語の単語、熟語、文法の知識。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業内容と関連する小テスト、および課題を課す。</p>	
<p>教科書：『コンパクト英語構文90』（数研出版）、  『理工系学生のための必修英単語2600』（成美堂）  参考書：『高校総合英語 Forest（フォレスト）6<sup>th</sup> edition』（桐原書店）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間、前期末試験の結果を70%、小テストおよびその他の課題評価を30%として、その合計点で評価する。ただし、中間試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が中間試験の成績を上回った場合には、60点を上限として試験の成績を再評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講Ⅱ	平成27年度	外国語教室 外国人チューター	3	後期	履修単位1	必修

<p>[授業のねらい]</p> <p>英語の多読および多聴を通してより多彩な英語に親しむとともに、英語のみで行われる会話形式の授業を通じて、様々な場面に 対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A&lt;視野&gt;[JABEE基準1(1)(a)] および(C)&lt;英語&gt;[JABEE基準1(1)(f)]に対応する。</p> <p>第1週 前半ガイダンス (授業の進め方) 【多読】各自選択書籍, 【多聴】演習1: News(1)</p> <p>第2週 【多読】各自選択書籍, 【多聴】演習2: News(2)</p> <p>第3週 【多読】各自選択書籍, 【多聴】演習3: News(3) 後半ガイダンス</p> <p>第4週 【会話】Unit 1 “Meeting People”</p> <p>第5週 【会話】Unit 2 “Talking About Your Daily Life”</p> <p>第6週 【会話】Unit 3 “Talking About Friends &amp; Family”</p> <p>第7週 【会話】Unit 4 “Making Plans to Go Out”</p>	<p>第8週 中間試験</p> <p>第9週 【会話】Unit 5 “Talking About the Weekend”</p> <p>第10週 【会話】Unit 6 “Talking About the Summer Vacation”</p> <p>第11週 【会話】Unit 7 “Making a Delicious Dish”</p> <p>第12週 【会話】Unit 8 “Talking About Your Hometown”</p> <p>第13週 【会話】Unit 9 “Giving Your Opinion”</p> <p>第14週 【会話】Unit 10 “Talking About the Future”</p> <p>第15週 全体のまとめ</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. まとまった分量の英文(物語)を読み、内容を理解できる。</p> <p>2. 英語で行われる議論や討論の内容を理解できる。</p> <p>3. 英語での問いに対して簡単な英語で答えることができる。</p>	<p>4. 学習した英語表現を応用し、適切に使用することができる。</p> <p>5. 会話に出てくる文法事項が理解できる。</p> <p>6. 日本と外国における社会的違いや文化的違いを認識することができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで学習し身につけた英語の知識・技能を基礎とし、 多読・多聴を通して英語に親しむとともに、会話形式の活動によ って様々な場面に対応できるコミュニケーション能力を 身につけることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～6を網羅した事項を定期試験及び授業中に行 われる様々な演習や口頭テスト等の結果、及びオンライン学習シ ステムを利用した語彙テストや課題等の結果で目標の達成度を評 価する。1～6の重みは概ね均等である。後期中間までは、定期試 験の結果を6割、授業中に行われる課題等を4割とし、学年末で は、定期試験の結果を5割、授業中に行われる様々な演習や口頭 テスト等や課題等を合わせた結果を5割とした総合評価において 6割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 本科目は、実社会で役立つ実的な英語運用能力を向上させるものであり、英語ⅣAおよび英語ⅣBの基礎となる。授業 時間はもちろん、それ以外の時間にも自ら進んで多くの英語に触れることが望ましい。その手助けとなるよう、授業に関連した課 題を課すことがあるので、提出期限を守り、計画的に学習を進めること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで身につけた英語運用能力</p>	
<p>[レポート等] 授業内容と関連した課題、レポートを課すことがある。</p>	
<p>教科書: <i>New Time to Communicate</i> 改訂版 (南雲堂)</p> <p>参考書: 『五訂版コンパクト英語構文90』(数研出版)</p> <p>『理工系学生のための必修英単語2600』(成美堂)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>後期中間までは定期試験の結果を6割、授業中に行われる課題等を4割とし、学年末までは、定期試験の結果を5割、授業中に行わ れる様々な演習や口頭テスト等の結果と語彙テストの結果を合わせて5割とし、その合計点で評価する。再試験は行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育 I A	平成 27 年度	川合 洋子	3 留学生	通年	履修単位 2	選

[授業のねらい]

本授業の受講生である外国人留学生はすでに基本的な日常会話を習得している。しかし、実際の高専生活においてはまだまだ「言葉」や日本における生活習慣の違いに戸惑わざるを得ない状態である。社会生活及び高専生活の中では自分の意思を伝達するために、説得力のある表現技術が要求される。そこで本科目では彼らが習得してきた内容を復習、定着させ、さらに日本語で「文章を書く」、「本を読む」、「話を聞く」、「自ら話す」能力を高めることを目的とする。

[授業の内容]

前期

すべての内容は学習・教育目標 (A) の<視野><意欲>、及び (C) の<発表>に対応する。

- 第1週 「日本語教育 I A」授業の概要および学習方法
- 第2週 初級段階の総復習
- 第3週 初級段階の総復習 (1) 「話す」
- 第4週 初級段階の総復習 (2) 「読む—漢字」
- 第5週 初級段階の総復習 (3) 「読む—漢字・語彙」
- 第6週 初級段階の総復習 (4) 「書く—文法・文型の確認」
- 第7週 初級段階の総復習のまとめ
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 中級段階の学習 (1) 「聞く」
- 第10週 中級段階の学習 (2) 「聞く」
- 第11週 中級段階の学習 (3) 「聞く」
- 第12週 中級段階の学習 (4) 「聞く」
- 第13週 中級段階の学習 (5) 「聞く」
- 第14週 中級段階の学習 (6) 「友達と会話する」
- 第15週 中級段階の学習 (7) 「目上の人と会話する」

後期

第1週～15週までの内容は、すべて JABEE1, (1), (f) に相当する。

- 第1週 「日本語を学ぶ意義」の再確認。
- 第2週 中級段階の学習 (8) 「読む—文章の読解」
- 第3週 中級段階の学習 (9) 「読む—文章の読解」
- 第4週 中級段階の学習 (10) 「読む—文章の読解」
- 第5週 中級段階の学習 (11) 「書く」
- 第6週 中級段階の学習 (12) 「書く」
- 第7週 中級段階の学習 (13) 「書く」
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 「文法・文型」の学習 (1)
- 第10週 「文法・文型」の学習 (2)
- 第11週 「短文の作成」 (1)
- 第12週 「短文の作成」 (2)
- 第13週 「作文の作成」 (1)
- 第14週 「作文の作成」 (2)
- 第15週 授業の年間のまとめ

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育ⅠA（つづき）	平成27年度	川合 洋子	3留学生	通年	履修単位2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>（「表現のよこび」）</p> <p>感じたこと、考えたことを日本語で正しく表現することができる。</p> <p>（「初級段階の総復習」）</p> <p>1. 「文章を書く」、「人と話す」、「本を読む」、「話を聞く」の初級段階のすべての項目について理解している。</p> <p>2. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達することができる。</p> <p>（「聴解力を養う」「会話の練習」）</p> <p>音声教材や実際の話者による聴解練習を通し、日本語の通常速度の会話を正確に把握する能力を身につけることができる。</p>	<p>（「本を読む」「文章を書く」）</p> <p>1. 日本語のテキストの文章を読み、新しく学ぶ漢字・語彙について理解している。</p> <p>2. 日本語の独特の表現方法を学び、正しく使うことができる。質問された内容に正しく答えることができる。</p> <p>（「文法・文型」の学習）</p> <p>1. 日本語の現代文の文章の中から、基本的な文法や文型を学び、正しく使うことができる。</p> <p>（「作文の作成」）</p> <p>1. 「作文」の作成技術の基本を学び、身近なテーマについて作文を書くことができる。読んだ人がわかりやすい文を書くことができる。</p> <p>（「行動別の言語表現」）</p> <p>それぞれの言葉の特性を知り、実際に使う時や場合を理解している。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>感じたこと、考えたことを日本語で正しく表現する能力を身につけるとともに、他者と円滑にコミュニケーションをとる能力を養う。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>学習の対象が日本語の全分野にわたるため、積極的な取り組みを期待する。授業中に疑問が生じたら直ちに質問すること。なお、本教科は、後に学習する「日本語教育ⅠB」「日本語教育Ⅱ」の基礎となる教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>配布するプリントについて予習すること。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。</p>	
<p>教科書：プリント学習および聴解教材</p> <p>参考書：英和辞典，和英辞典，国語辞典，漢和辞典などを持参すること。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>2回の中間試験・2回の定期試験により60%，レポート・小テスト等の結果を40%として評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>定期試験，レポート等により学業成績で60点以上を修得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育 I B	平成 27 年度	川合 洋子	3 留学生	後期	履修単位 1	選

〔授業のねらい〕 本授業では先の「日本語教育 I A」の学習を受けて、中級段階の実用的な日本語の習得を主目標にする。また、「表現することのよろこび」を学ぶことを柱に据え、具体的には「口頭表現力」・「聴解力」・「漢字」・「語彙」・「文法」・「作文力」をより向上させる。また、日本語能力試験 N1 取得を視野に入れた学習も行う。

〔授業の内容〕	
<p>すべての内容は学習・教育目標 (A) の&lt;視野&gt;及び (C) の&lt;発表&gt;に対応する。</p> <p>第 1 週 「日本語教育 I B」授業の概要と学習方法</p> <p>第 2 週 中級段階入門編の総復習 (1)</p> <p>第 3 週 中級段階入門編の総復習 (2)</p> <p>第 4 週 「話す・聞く」学習 (「自己紹介」)</p> <p>第 5 週 「話す・聞く」学習 (「日常会話」の応用)</p> <p>第 6 週 読解学習 (1)</p> <p>第 7 週 読解学習 (2)</p> <p>第 8 週 中間試験</p>	<p>第 9 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (1)</p> <p>第 10 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (2)</p> <p>第 11 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (3)</p> <p>第 12 週 文法・文型の学習</p> <p>第 13 週 「生活作文」学習 (1)</p> <p>第 14 週 「生活作文」学習 (2)</p> <p>第 15 週 日本語教育 I B の学習のまとめ</p>

〔この授業で習得する「知識・能力」〕	
<p>(「表現のよろこび」)</p> <p>1. 感じたこと、考えたことを、日本語で思う存分表現することができる。</p> <p>2. 日本人特有の感情や考え方を知り、日常のコミュニケーションに役立てることができる。</p> <p>(「口頭表現力・聴解力」の養成)</p> <p>1. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達することができる。</p> <p>2. 「自己紹介」や「日常会話」の学習を通して、「口頭表現力」の知識と能力を身につけることができる。</p> <p>3. 聴解練習を通し、通常速度の会話文を正確に把握することができる。</p>	<p>(「文章読解力の養成」)</p> <p>1. テキストの文章を読み、新しい漢字・語彙を理解している。</p> <p>2. テキストの文章の書き手の意図を理解している。文章を速く的確に読むことができる。</p> <p>(「漢字」・「語彙」・「文法」・「作文力」の養成)</p> <p>1. 中級程度の漢字・単語・慣用句表現さらに三字熟語・四字熟語・擬態語など日本語特有の表現を習得している。</p> <p>2. 作文についての基礎技術について習得している。</p> <p>(「生活作文」の学習)</p> <p>原稿用紙の使い方、段落の分け方を学び、身近な課題をもとに作文を発表することができる。</p>

〔この授業の達成目標〕	〔達成目標の評価方法と基準〕
<p>感じたこと、考えたことを日本語で思う存分表現できる能力を身につけるとともに、日常のコミュニケーションを円滑に行う能力を養う。</p>	<p>上記の「知識・能力」を網羅した問題を 1 回の中間試験、1 回の定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の 60% の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>

〔注意事項〕 日本における実際の日常生活の中において、何事にも「積極的」、「意欲的」に取り組むように努力する。なお、本教科は後に学習する「日本語教育 II」の基礎となる教科である。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 実際の日常生活において、分からない言葉やことがらなどをメモしておくこと。なお、本教科は「日本語教育 I A」の学習が基礎となる教科である。

〔レポート等〕 理解を助けるために、随時演習課題を与え、提出させる。

教科書：プリント学習および聴解教材

参考書：英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典、その他、各自の自主教材。

〔学業成績の評価方法および評価基準〕 中間試験・定期試験により 60%、レポート・小テスト等の結果を 40% として評価する。

〔単位修得要件〕 学業成績で 60 点以上を取得すること。



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育	平成27年度	宝来 毅	3	通年	履修単位 2	必

〔授業のねらい〕

各運動を通じて、基本的な運動能力の向上と基本的技術の習得を図る。ゲームや集団競技において協調性や個人の役割を自覚し、チームの力量に応じた練習やゲームができるようにする。余暇活動の一環として、運動を楽しみ、実践することによって活動的で豊かな生活を高め、心身の健全な発達を促す。

〔授業の内容〕

前期

- 第1週 スポーツテスト
- 第2週 スポーツテスト、バレーボール（ルールの理解）
- 第3週 バレーボール（パスワーク）、ミニゲーム
- 第4週 バレーボール（サーブ）、ミニゲーム
- 第5週 バレーボール（スパイク）、ミニゲーム
- 第6週 バレーボール（コンビネーション）、ミニゲーム
- 第7週 バレーボール実技テスト
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 バレーボール（ゲーム）
- 第10週 バレーボール（ゲーム）
- 第11週 バレーボール（ゲーム）
- 第12週 水泳（天候不良時はバレーボール）
- 第13週 水泳（天候不良時はバレーボール）
- 第14週 水泳（天候不良時はバレーボール）
- 第15週 水泳（天候不良時はバレーボール）

後期

- 第1週 サッカー（基本練習、ルールの理解）
- 第2週 持久走、サッカー（パスワーク）、ミニゲーム
- 第3週 持久走、サッカー（ボールキープ）、ミニゲーム
- 第4週 持久走、サッカー（シュート）、ミニゲーム
- 第5週 持久走、サッカー（コンビネーション）、ミニゲーム
- 第6週 持久走、サッカー（総復習）、ミニゲーム
- 第7週 サッカー（実技テスト）、ミニゲーム
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 持久走、サッカー（ゲーム）
- 第10週 持久走、サッカー（ゲーム）
- 第11週 持久走、サッカー（ゲーム）
- 第12週 持久走（計測）、サッカー（ゲーム）
- 第13週 サッカー（ゲーム）
- 第14週 サッカー（ゲーム）
- 第15週 サッカー（ゲーム）

（天候不良時は、適宜指示する）

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（つづき）	平成27年度	宝来 毅	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>バレーボールでの対人パス（オーバーハンド、アンダーハンド）とサーブができる。</li> <li>バレーボールでのトス（オーバーハンド、アンダーハンド）が連続20回以上できる。</li> <li>自己の能力に応じた技能の習得や問題解決の努力によって個人技能を高め、意欲的に楽しくゲームに参加できる。</li> <li>水泳では、2種目（クロール、平泳ぎ、背泳、バタフライのうち）の25M完泳と1種目において100M完泳ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>サッカーでは、リフティングが男子連続11回以上、女子連続6回以上できる。</li> <li>サッカーでのキック（インサイド・インステップ・インフロント）で正確にボールを蹴ることができる。</li> <li>チームにおける自己の能力や役割を自覚し、お互い協力してゲームに参加できる。</li> <li>試合上の態度（協力・責任・公正等）や健康・安全に留意して授業に取り組むことができる。</li> <li>長距離走では、自己の達成目標に向かい、記録向上を目指して意欲的に取り組むことができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>自己の能力やチームの課題に適した練習やゲームを通じて個人技能や集団技能を高め、簡単な作戦を生かしたゲームができると共に、ルールを守り、積極的に運動に参加し、健康・安全について理解し体力向上を目指す態度を備えている。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>学習への意欲・向上心・自主性・問題解決への努力、個人技能（能力、習熟の程度）、集団技能（役割、能力、戦術等）を考慮して評価する。評価結果は、百点法で60点以上の場合に目標達成のレベルとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>服装は、学校指定のジャージを使用すること。</li> <li>日直は、事前に担当教官の指示を受け、クラス全員に連絡を徹底すること。</li> <li>身体に障害（内臓疾患、皮膚疾患等）があり運動制限のある学生は、医師の診断書を提出し、その旨を申し出ること。</li> </ol>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>バレーボール、サッカーについて、試合上のルールを事前に学習し、覚えておくこと。</p>	
<p>[自己学習]（履修単位の場合は[レポート等]）</p> <p>長期見学・欠席する学生については、レポートを提出すること。</p>	
<p>教科書：特になし</p> <p>参考書：アクティブスポーツ（大修館書店）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>実技科目による評価を70点、授業に対する姿勢（学習意欲、向上心、記録成果への進展状況等）を30点として100点法で評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記の評価方法により60点以上を取得すること。</p>	